

【事例3】 NPO市民講座

実施年度	平成14年度	連携・協働形態	その他												
事業内容	<p>NPOという概念がつけられた背景や仕組みの学習 市民と行政や企業が手を取り合って地域の課題を解決する手法の学習 講師には大学教授や新しい地域づくりに取り組んでいるNPOの造詣の深い方を招いて、5回の講座を実施した。 実施場所：県西生涯学習センター 4回 三桜工業(株)(現地研修) 1回 参加対象：県西管内外の近隣市町村から募集に応じて集まった31名</p>														
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				計画	実施	実施後の評価	行政				NPO			
	計画	実施	実施後の評価												
行政															
NPO															

《行政》

茨城県	教育委員会	担当課	生涯学習課	電話	029-301-5318
-----	-------	-----	-------	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

- ・ センター利用者、センターボランティアのなかに、NPOについて学習し、理解を深めたいという希望があったので、県西地区にあるNPO法人「ねこネット」との連携をとり、共に学びあい、交流する場として講座を企画した。

役割分担

NPO側：5回の講座の講師の選定

行政側：場所の提供・事業のPR・受講者の募集・講師選定についてのアドバイス

連携・協働によるメリット等(事業成果)

- ・ 行政とNPOとの役割を明確にしたことで、講座の内容や日程等の計画をスムーズにできた。
- ・ 多方面の講師の方から指導を受けたので、受講生のNPOに対する理解が深まった。

連携・協働する上で配慮した点

- ・ 連携を深めるために、事前の話し合いの時間を十分にとれるように配慮した。
- ・ 講座の内容に行政側外としたものが組み込まれるよう、講師の選定に配慮した。

課題と対応

- ・ 課内の職員のNPOに対する認識も浅く、NPOとの協働の事業は初めてなので、事業を進めるのに不安があった。
- ・ 多方面からNPOに関する情報を収集したり、センターのボランティア・コーディネータ

ーの意見を参考にしながら事業を実施した。

連携・協働の今後の展望

県西地区は、水戸地区などに比べてNPOの活動が低調であるが、この講座を通して、NPOへの理解を深めたひとたちが若干でも増えたことは、今後のNPOの活動にとってプラス材料である。

《協働相手のNPO》

団体名	NPOプラザ・ねこねっと	電話	0296-24-2100
住所	〒308-0827 下館市市野辺133-1 ロードサイド201号		